

## 平成 21 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

作業療法領域における住環境の評価及び記録用紙に関する研究

学位の種類： 修士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系  
学修番号 08896606

氏名：澤田 有希

（指導教員名：橋本 美芽 准教授）

【目的】本研究は、住環境整備において、回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）に勤務する作業療法士（以下、OTR）が活用しやすい記録用紙を提案するため、住環境整備における OTR の役割、及び、OTR が行う住環境整備や記録用紙の実態把握を目的とした。

【方法】本研究は、住環境整備業務、記録用紙使用実態の概要を把握するための一次調査（アンケート）、記録用紙の使用実態の詳細を把握するための二次調査（ヒアリング）で構成した。一次調査は、首都圏の回復期リハ病棟を有する 175 病院にアンケートを郵送し、3 年目以上の経験を有する OTR 各 1 名から回答を得た。二次調査は、30 名の OTR を対象に、記録用紙の使用実態の詳細を聴取した。分析は、カイ 2 乗検定、及び、KJ 法に準じた手法で行った。

【結果】1.一次調査結果 (1)有効回答数 67 通（有効回答率 38.3%）であった。(2)OTR が行う住環境整備の業務内容（ラベル数 539 枚）は、①訪問調査に向けての準備、②訪問調査、③住環境整備・退院に向けての準備、④退院後のフォローアップ、の 4 つのコアカテゴリに分類された。(3)OTR は多職種と連携を図っており、住環境の評価は OTR、理学療法士（以下、RPT）が中心であった。連携内容（631 枚）は、RPT（155 枚）が最大のラベル数であった。(4)情報収集手段は、訪問調査前に行う手段と、訪問調査時に行う手段に分けられた。(5)記録用紙は 56.7%の病院に備えられており、OTR の大小で比較した結果、有意差が認められた。記録用紙は訪問調査前と訪問調査時に使用する 2 タイプが存在した。病床数の大小で比較した結果、記録用紙の使用の有無について有意差が認められた。(6)記録用紙の必要性は 80.6%の OTR が感じており、56.2%の OTR 数が他職種と共用できる記録用紙を必要としていた。2.二次調査結果 (1)OTR が行う住環境整備の詳細な業務内容（717 枚）は、アンケートと同様の 4 つのコアカテゴリに分類された。詳細な内容を示す複数のサブカテゴリが追加された。(2)「OTR と他職種との詳細な連携内容」はラベル数 620 枚あった。(3)「現状の記録用紙」は 172 枚あった。訪問調査前の記録用紙は、訪問調査前の住環境整備の検討や訪問調査で活用するために使用されていた。訪問調査時の記録用紙は、訪問調査で必要な事柄をもらさずに確認・記録するために使用されていた。(4)「必要な記録用紙」は 91 枚あった。訪問調査前の記録用紙は、項目を絞った簡易的なタイプが求められていた。訪問調査時の記録用紙は、訪問調査時の見落としや経験の差を少なくし、訪問調査後も住環境整備プランの記入や他職種への報告ができる用紙が求められていた。

【考察・結論】OTR は、入院から退院までの住環境整備業務において中心的かつ多様な役割を担っていることが示された。OTR は多職種と連携を図っており、連携内容、及び、OTR が考える他職種の役割が示された。記録用紙は、情報収集手段に合わせ、訪問調査前と訪問調査時に使用する 2 タイプが存在した。それぞれのタイプの記録用紙が求められ、かつ、他職種と共用できる記録用紙が必要とされていた。